

千葉市感染症発生動向調査情報

2014年 第51週 (12/15-12/21) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		51週	50週	49週	48週
小児科		18	18	18	18
眼科		4	5	5	5
インフルエンザ		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			12/15-12/21 51週	12/8-12/14 50週	12/1-12/7 49週	11/24-11/30 48週	12/8-12/14 50週
小児科	RSウイルス感染症	○	16 0.89	19 1.06	8 0.44	10 0.56	236 1.77
	咽頭結膜熱		0 0.00	0 0.00	2 0.11	1 0.06	73 0.55
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		34 1.89	52 2.89	62 3.44	35 1.94	392 2.95
	感染性胃腸炎	○	280 15.56	256 14.22	251 13.94	170 9.44	1,632 12.27
	水痘		17 0.94	18 1.00	14 0.78	12 0.67	178 1.34
	手足口病		4 0.22	16 0.89	18 1.00	15 0.83	90 0.68
	伝染性紅斑		8 0.44	7 0.39	1 0.06	2 0.11	88 0.66
	突発性発しん		12 0.67	7 0.39	11 0.61	11 0.61	50 0.38
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ		2 0.11	1 0.06	4 0.22	3 0.17	11 0.08
	流行性耳下腺炎		1 0.06	3 0.17	3 0.17	4 0.22	72 0.54
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○★	566 20.21	357 12.75	223 7.96	150 5.36	2,317 10.93
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 1.00	3 0.60	6 1.20	2 0.40	16 0.47
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	無菌性髄膜炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	1 1.00	0 0.00	1 1.00	2 0.22
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	1 1.00	0 0.00	1 1.00	1 0.11
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	病原体の検出	結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	結核	女性	40歳代	IGRA検査等
結核	男性	70歳代	病原体の検出	腸管出血性大腸菌感染症	女性	40歳代	病原体の検出及び ヘロ毒素の確認
結核	男性	70歳代	胸水ADA値の上昇				

・結核6件(250)、腸管出血性大腸菌感染症1件(20)の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第51週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より減少し0.89となった。過去10年の同時期と比べると多い。

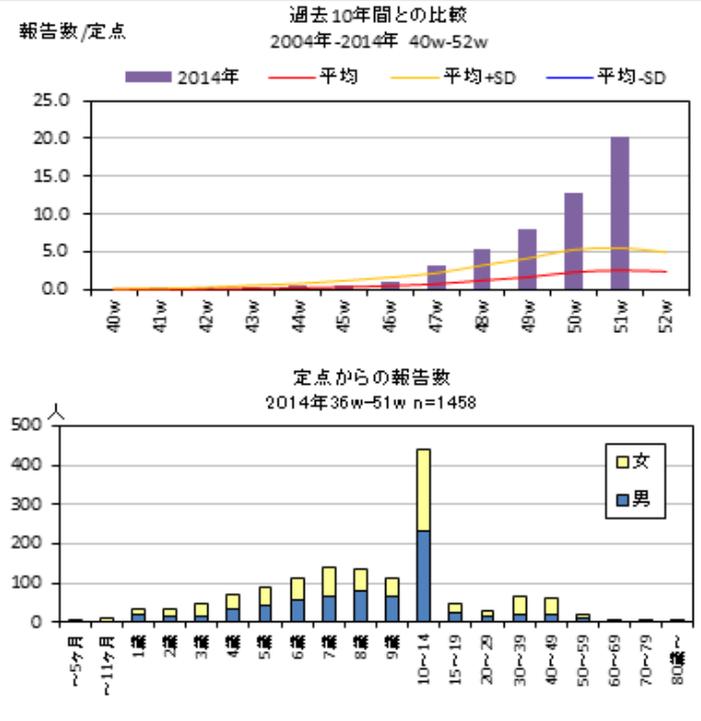
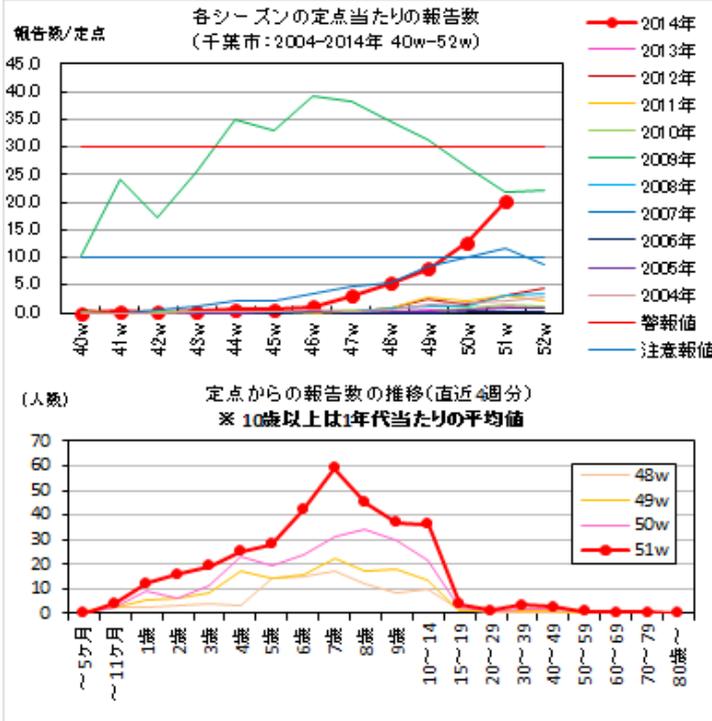
<感染性胃腸炎> 前週より増加し15.56となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<インフルエンザ> 前週より更に増加し20.21となった。流行発生注意報基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

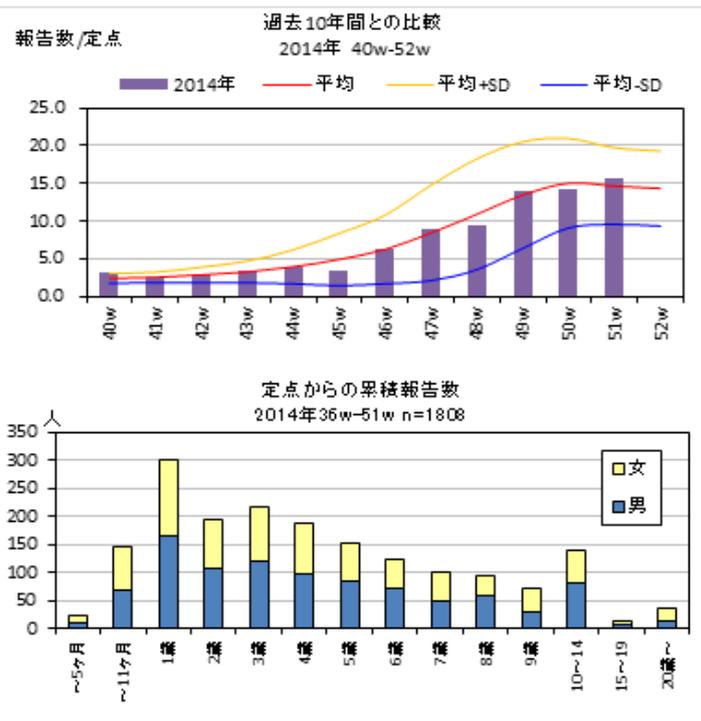
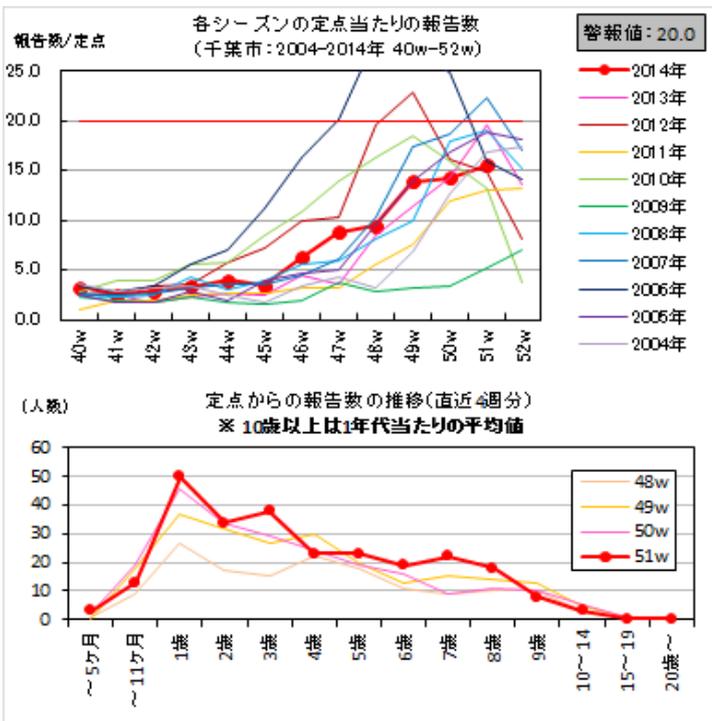
<インフルエンザ>

2014年の全国レベルの第50週現在は過去7年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて最多となっています。都道府県別では、埼玉県、岩手県、北海道の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより多くなっています。千葉市の第51週現在は前週より更に増加し20.21となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回ったままとなっており、過去10年の同時期と比べると平均+2SDを大きく上回り、大変多い状況となっています。区別の発生状況では、若葉区(29.3/定点)で最多で、同区の10歳代前半で最も多く、1年代あたりでは6歳及び7歳で最も多く報告されました。今シーズンである2014年第36週から第50週現在の累積報告数(n=1458)によると、性別では男性が50.3%(734名)、女性が49.7%(724名)で、年齢階級別の1年代あたりでは7歳(9.6%:140名)、8歳(9.4%:137名)、9歳(7.8%:114名)の順に多くなっており、全体に占める20歳未満の割合は87.0%(1269名)、10歳未満の割合は53.8%(784名)となっています。



<感染性胃腸炎>

2014年の全国レベルの第50週現在は、過去7年の同時期と比べて少なめとなっています。都道府県別では、大分県、鹿児島県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の第51週現在は前週より増加し15.56となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、若葉区(26.5/定点)で流行発生警報基準値(20.0/定点)を上回り最多で、同区の3歳で最も多く報告されました。今シーズンである2014年第36週から2014年第51週現在の累積報告数(n=1808)によると、性別では男性が53.8%(975名)、女性が46.1%(833名)で、年齢階級別では1歳(16.6%:301名)、3歳(12.0%:217名)、2歳(10.7%:194名)の順に多くなっています。



<RSウイルス感染症>

2014年の全国レベルは、第46週から連続して過去7年の同時期と比べ最多となり、第50週現在も同様で上昇を続けています。都道府県別では、徳島県、福島県、宮城県に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第51週現在は前週より減少し0.89となりましたが、過去10年の同時期と比べると依然として多い状況となっています。区別の発生状況では、緑区(1.75/定点)で最多で、同区の6か月未満で最も多く報告されました。今シーズンである2014年第36週から2014年第51週現在の累積報告数(n=140)によると、性別では男性が58.6%(82名)、女性が41.4%(58名)で、年齢階級別では1歳(37.1%:52名)、6か月~11か月(22.1%:31名)、0~5か月(20.0%:28名)の順に多くなっています。

